



グスタフ・クリムト

「人生は

なり (黄金の騎士)」 1903 年

クリムトらしい作品の大半は、女性をモデルにしたものです。また、金箔を使い華やかな装飾的な作品も数多く見られます。その中で、この「黄金の騎士」は、主題・様式ともに例外的な作品とされています。

では、問題。

Question

この作品は、人生に立ち向かう騎士＝画家自身をかいたといわれていて、もう一つの題がつけられています。その題を考えてみましょう。

ヒント☆「人生は〇〇〇〇なり」に合う言葉を
入れてみてください。

A たたかい (戦い)



03

グスタフ・クリムト(1862-1918)

《人生は戦いなり(黄金の騎士)》

1903年

油彩・テンペラ・金箔・画布 100.0X100.0cm

ノダ自動車株式会社からの寄附金により購入

オーストリアに生まれたクリムトは、劇場や美術館の室内装飾の仕事に携わり、古典的な画風で人気を博しました。しかし、保守的な芸術に対抗し、ウイーン分離派の結成に参加しました。この作品は、第18回ウイーン分離派展の出品作です。背景の森や騎士の表現に見られるように、金などの工芸的な装飾要素を導入し、また影や光のないう平面的な描法で革新的な絵画を表現しました。黄金の鎧よろいに身を固めた騎士は、頭の古い人々からの非難と戦うクリムト自身だといわれています。色とりどりの花が咲き、金と緑がきらめく理想の森を、騎士は行く手の蛇や樹幹にひそむ魔物にかまわず進んでいます。